

令和6年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和6年11月23日（土）10時～正午
- 開催場所 近隣センターこもれび
- 参加者 市民10名
- 出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等12名

市民：ホームページを見たのですけれども、浸水センサー表示システムというのがありますが、それが今、実証実験中ということで読みました。これは素晴らしいシステムだというふうに僕は思うのですが、私の住んでいる東高野山自治会は5年前ぐらい前に雨水の貯水貯蔵施設を作っていただきまして、50ミリ程度の雨量の場合は、50センチ程度の浸水に収まるということになりましたけれども、現在温暖化が進みまして、雨量は想定できない範囲の形で降る場合もありますので、浸水センサー表示システムが本格運用になりましたならば、東高野山自治会の方にも設置していただきたいと思います。それと同時に警報装置的なものと連動して、夜中でも大量の雨が降って、気づかないで寝ている方の不安を解消するためお願いしたいと思います。つきましては、この実証実験の用途というか、仕組み的なものをちょっと説明していただければと思います。

建設部長：はい、ありがとうございます。事業主体が国の事業です。国土交通省の事業でセンサー自体も国のものを使わせていただいて、我々は場所の提供をしています。国の方が14日から一般に公開するというので、我々の方もホームページの方に掲載させてもらいました。今、設置しているのは、泉地区、それからよく車が浸水してしまうようなところですか、あとは、我孫子4丁目地区、ここは国道6号線と我孫子駅に挟まれている、くぼんだ地区ですが、その地盤が低いがゆえに浸水してしまう。ですから配水管を大きくすればいいという問題ではなくて、ただ地盤が低いので浸水してしまう地区ですので、我々も公助として調整池を作ったりして対応していたのですけれども、今お話しがあったように最近集中豪雨が多く、昨年も9月20日の集中豪雨で床上浸水が7件ぐらい被害にあってしまいました。ですから、我々と地元の方々と一緒に調整池を作りましたので、皆さん方は、車を避難してもらおう。あるいは、近くに土嚢を積んで

おきましたので、自助の対策をしてもらうようにしていただきました。今回そういったところがありましたので、早めに皆さんの自助の対策をとっていただくということもあろうかと思えます。国の方の実証実験に我々も手を挙げて泉地区と我孫子4丁目地区に設置をしていただきました。ただ、簡易的なもので、設置段階も何段階かにしておりますので、皆様にいち早く知っていただければということで設置しております。その状況で、今後これを広げてくのかどうかについては、今は無料ですけれども、来年からは市が支払っていかなければならないので、どのように活用できるかというところを検討していかねばいけないと私は思っております。

市民：私からは3点申し上げます。1点目は今お話が出ましたワンコイン浸水センサーの件です。泉地区にもつけていただきまして、5センチ、10センチ、45センチの浸水があると国土交通省のホームページで今どういう状況かというのが現地を見なくても把握できるようになりましたとあります。したがって、車をそういう浸水しているところに突っ込むということもなくなりましたという状態です。ところで柏市はですね、同じようにワンコイン浸水センサーの実証実験に参加しているのですが、その表示については、柏市の管路内水位観測システムという、柏市のホームページで見られるように追加されました。何が見えるかというワンコイン浸水センサーの推移と、マンホール、それから調整池の水をリアルタイムで常に見られるというシステムです。隣の柏市にあるシステムですが、我孫子市は地図上全部表示されています。については、我孫子市もこのシステムを導入していただいて、単純に道路冠水した状況が把握だけでなく、もっと前に下水の水が上がってきてしまったというリスクを把握できるように、ぜひ行っていただきたいと思えます。柏市はこのシステムの整備補修業務委託のために4,840万円の予算を投入しました。我孫子市が同じようにしようとするとなんていう予算規模になってしまいますので、独自で作るのではなくて、柏市のシステムに相乗りさせていただく。我孫子市は推計だけの特別なものなので、安く設置できるものが開発されていますので、それに乗っていただきたいと思えます。そうすると柏市の方も保守業の委託費が削減できますので、メリットがありますから共同運用ということで、ぜひ協議して進めていただくと、我孫子も柏と同レベルの水害対応ができると思えますので、よろしく願いいたします。

2 点目ですが、これは国の方の、田中調節池の洪水調節機能の向上への対応の件です。国の当初の計画では田中調節池の後田樋管の堤防がパチンコ屋の駐車場のところで 3m 低くなっているにもかかわらず、そのままの高さにすることになっていました。これですと、超過洪水が発生した場合には、その低いところから越水して市内へ洪水が押し寄せる危険があるものでした。これに対して市民の安全を確保するために、市長より利根川上流河川事務所長に今年の 5 月にパチンコ屋の駐車場の低いところを、後田堤防と同等に、超過洪水に備えた高さにするよう、申し入れをしていただきました。市民の不安を解消するためのご対応を図っていただきまして、誠にありがとうございました。国土交通省では当初の計画を見直して、この部分の高さを後田堤防と同等のレベルにしていだけるようになったのか、現在の状況を教えていただくよう、お願いいたします。次、3 点目です。柴崎幹線排水路の常磐線下の実施設計の件ですが、去年の案では排水能力に不足がネックになって、振り出しに戻ってしまいました。その後、設計の改善状況が公表されていけませんので、現在の状況と今後の見通しを教えてください、よろしくお願いいたします。

建設部長：はい、ありがとうございます。浸水センサーの件につきましては、先ほどお話ししましたとおりです。先ほど、市長からも説明がありましたように、経常経費は 9 億円のマイナスということで治水事業の方も、当然数千万円の削減をしております。特定財源のないものを削減しておりますので、先ほど自助と公助のお話をさせていただきましたが、浸水センサーですが柏市のシステムを間借りしても、我々も同じような費用がかかるというような回答をいただいておりますので、なかなか難しいのかなと我々も思っています。今回、浸水センサーをつけた業者さんも、今、柏市さんの設計者と違う方が行っていますので、違うシステムかと思えます。今、柴崎、我孫子 4 丁目、布佐の方も治水事業を行っております。その中で、4,000 万円の支出をその浸水センサーにとなると、なかなか難しいのかなと私は思っております。今、国の浸水センサーを使わせていただいて、いち早くご覧いただいたということで、今後、様子を見ていきたいと思っております。2 点目ですが、田中調節地の件については、ご指摘いただいた部分は、我々も確かにリスクというのは十分把握しております。去年の 5 月に利根川上流河川事務所長様が来た時に、市長の方から要望という形をお願いをさせていただいております。

まして、要望の方は承諾いただいております。ただ、5月から5ヶ月も経っているのではないかと思うかもしれませんが、設計はこれからですので、回答というよりは、設計の中で行っていくものだと私は思っていますので、回答があったかという点では、まだその確認をしておりませんが、我々は承諾いただいているものと理解しております。

3点目ですが、常磐線下の設計については、かなり長い距離を常磐線の下を抜いていく工事になるのですが、今、設計をしておりまして、詳細の方を進めているところです。国土交通省の土木研究所の方とも話をさせていただいて、今、最終段階に入っているところでございます。もうしばらくお待ちいただければと思います。工事の方は先ほど市長の方からもご説明あったように11月15日に決まりましたので、これから2ヶ年事業で進めていく予定でございます。

市民：浸水センサーですけど、柏市は確かに4,000万円です。この事業者と柏市さんで開発したシステムでして、業者さんは他の自治体に広げていきたいとおっしゃっている。もう公表されています。後でそのペーパーを差し上げますので。当然、中を見ますと、かかる費用というのは、我孫子市は比較的安い浸水センサーを開発しているらしいのですが、それを載せれば、それをデータで飛ばしてホームページに反映させるという部分だけですので、もう元のデザインは出来上がっていますから、そんなにお金は要求されなくてできるはずなので、ここは交渉事ですので、予算がないからというのではなくて、少ない予算でできるように。例えば1,000万円できるとか、そういうレベルにぜひさせていただいて、あと最初は箇所を減らして予算を節約して、順次増やしていくという方法もあると思いますので、何もしないのではなくて、まずは柏市さんに申し入れをして、業者さんに申し入れをして、単に柏市さんのシステムに表示箇所を追加するだけなら安いだらうという交渉をぜひお願いしたいと思います。4,000万円をかける必要はないと思っております。

建設部長：話はしてみます。

市民：私は良い点で、お尋ねをしたいと思います。特に重点的な予算配分を検討する分野、資料の5ページですけども、移住定住に繋がる事業の推進ということで、

お尋ねをさせていただきます。私も 2002 年に我孫子に居を構えて、住んでみて我孫子の自然やあるいは電車で上野まで 30 分、今は成田から品川まで行く電車も何本かありますけれども、我孫子から品川行きの電車もあるということで、非常に私も気に入っているところです。我孫子市の人口ピラミッドを見ると、一つの山がやっぱり 80 代から 75 ぐらい。それともう一つの山は、54 歳から平間があります。あと急激に逆三角形で年代の減少が始まるわけです。他の市町村では、やはり生産年齢というのでしょうか、働いている方の受け皿というもの。それは保育園が必要だったり、幼稚園が必要だったりということもあるのですけれども、そういうものの受け皿を作っておかないと、やはり生産年齢の一番の 50 歳以下の方が増えていかないのではないかと。特に 30 歳 40 歳、その方々が我孫子に見に来る機会というのは、なかなかアピールできないということだと思います。最近、天王台地区でもマンションが建っておりますけれども、やはりそういうことも踏まえて、あるいは新築の住宅も我孫子市内でも建設をされている状況でございます。ただ受け皿として、何か考えていく必要があるのではないかなというふうに思いますので、やはり市税の安定的な確保に向けて、人口を増やすとか、あるいは企業誘致だとか、そういったものもあるかと思います。我孫子市の地形を見ると、南北に狭く東西に細長いという土地柄もあるでしょうけれども、企業誘致の件と、それと受け皿の件についてお尋ねさせていただきたいと思います。

企画総務部長：移住定住のご質問ということで、おっしゃっていただいたところが多々あったかと思います。ここに掲げてある戦略でございますけれども、今お話がありましたとおり、我孫子市の西側は人口が現状として増えている状況にありますが、湖北から東側の新木、布佐地区は非常に人口が減少しているとともに、お話がありました後期高齢化率も非常に高いというようなことがございます。まずは、この移住定住の事業推進を行って、東側地区の魅力向上に力を入れるというところで、今年度は東側地区に特化した都心向けの PR 広告や不動産情報サイトにまず我孫子のいいところを紹介するなど、このような政策が 1 件大きなものとしてございます。もう一点の受け皿というお話ですけれども、こちらにつきましても、これから若い世代を受け入れていくのであれば、保育園の充実とか、今お話の中で具体的なものとしてありましたけれども、我孫子市の待機児童ゼロは堅持をしていること。それから保育施設に関しても、民間の

保育施設もございますので、市と連携を図りながら、待機児童を出さないというところでは、これからも維持をしていきたいと考えています。あと小学生ですが、学童も今、共働きの世帯が大変多いので、ここも市長とも相談をしながら学童保育にも力を入れて、さらにもう一つ先のステップとして市内全ての小学校にあびっ子クラブという子供たちの居場所なども準備をしながら、子育て支援を進めているところでございます。話は戻りますけれども、この移住定住に繋がる事業としてシティプロモーションはこれからも行っていきたいと思っておりますし、若い世代が長く住み続けていただけることと若い世代に入ってきていただいて、個人市民税に委ねる部分が多い我孫子市の財源確保に取り組んでいきたいと考えており、移住定住の促進につきましては、今年度も引き続き進めていきたいと思っております。

市長：今、部長が説明したように、我孫子の13万の人口のうちの約9万人が、我孫子、天王台に住んでいて、残りの4万人ぐらいが湖北から東側という、非常にバランスの悪い状況ができています。そういう状況の中でも今ご指摘のように我孫子で生まれる子供は、どんどん減っています。去年、一昨年は700人生まれませんでした。今年はさらにそれよりも低い数字で出生届を受けていますので、今年についても、おそらくそのレベルかあるいはそれよりも下という状況です。生まれない限りはどうしてもなく、高齢化が高いということは、亡くなる人は多くて、2年続けて亡くなる人が1,500人を超えており、自然減が全然止まらないという状況です。ただ、幸いなことに東京から30分、40分で来られるという状況の中で社会増はあります。今までだと社会増は大体500人前後でした。いわゆる、その生まれる子供と亡くなる方の差は埋められないという状況でしたが、昨年、久しぶりに人口増に転じました。これは、生まれる子供と亡くなる方というよりも、我孫子に引っ越してきた方が多くいらっしゃったということですが、蓋を開けてみると半分ぐらいが外国人です。皆さんもお気づきかと思いませんけれども、最近外国人をあちらこちらで見るとい話がこの地区の市政ふれあい懇談会でも聞かれます。別に日本国として移民政策を取っているわけではないですけれども、我孫子には大学もあるしNECもあって、いろんな形でいわゆる留学や研修に来る外国人が多いということに加えて、我孫子市内には日本語学校が結構あります。この天王台にもあります。そこで日本語を学んだ上で、その後介護施設などに就職する方がかなり

増えているという状況です。一番多い外国の方が中国です。次が、ネパールになりました。次はベトナム人です。外国から来る方に対しても、いろんところで日常生活のトラブルがあり、その多くがゴミ出しについてです。そこについては日本語学校の方に協力をお願いして、日本語だけではなくて、日本で暮らす全ての生活習慣も一緒に教えてもらえるようお願いをしているところです。何かあれば、その都度日本語学校にお願いをするなどしておりますが、布佐地区では、利根川の反対側にウェルネス大学がありまして、生活するのは布佐でアルバイトが出来る場も多いということで、我孫子市内に住んでいるという状況です。コロナ以降、都内に住んでいるよりも我孫子に住んだ方が、家賃が3分の1で部屋が倍になって、出勤しなくても自宅で仕事をすれば良いという企業に勤めている方については、結構引っ越してくる方が特に多くなってきたという状況です。そこにプラスアルファとして成田線沿線でのPRを特化してみようというふうに動いているところであります。成田線の本数の少なさを逆に利用すれば、非常に治安が良くて、自然豊かで生活する際にあれもこれもと望まなければ、非常に子育てしやすい環境だと私は思っていますので、もう少し東側地区のPRを強化していきたいと思っています。今一番厳しいことは、布佐駅と新木駅を結ぶ路線バスが8月で廃止となり、そして布佐から国道356号を通過して天王台駅に行っている路線バスも廃止ということで、今そこに対して補助を出しながら、布佐から新木、湖北の人達の足の確保のために、あびバスと同じように支援金を出しているところです。そして保育ニーズも当然ご指摘のように若い人たちに引っ越してきてもらうために、特に最近の若い人達ですと、共働き家庭が増えていますから、保育ニーズが高いです。幼稚園よりも保育園にニーズがあります。天王台だとエーデル幼稚園が残念ながら園児の募集を止めました。それ以外については、保育園はもっと必要だという人もいますけれども、実際に子供の人数が減っている中で保育園を建てすぎると、もっと子供が減った時にその保育園は倒産になるという状況を踏まえると、幼稚園は昔から定員はほとんど減らさずに運営していますから、教室が開いている幼稚園をこども園に変えてもらう。保育園と幼稚園が一体化したようなものが、こども園ですから、いわゆる幼稚園は3歳以上ですけれども、0歳、1歳、2歳を入れることによって、子供の確保に繋がります。幼稚園がこども園として運営することによって、幼稚園の空いている教室に保育園として2歳まではいてもらって、共働きをしている人の子どもは保育園に入り続けることができます

から、そういう形で今誘導をしています。だから幼稚園だったものは、こども園に変わったり、保育園だったものが幼稚園に変わったりという形で、今、我孫子市内にこども園ができてきています。ただ、名称は変わらず、運営上は保育ニーズを確保するために、市としては保育園と幼稚園の両方の機能を持ってもらって、空き教室を埋めていくような、そういう対応をし、お願いをしているところでございます。

また、企業誘致についても残念ながら我孫子には工場を建てられる工業用地というのはありません。今、市内で唯一の工業用地はNECだけです。それ以外のところに工業用地がないので、工場が建てられないということで、今、柴崎のところに市内の工場を集約しようと予定していたのですが、残念ながらうまくいきそうになってきました。それと、NECの脇です。下ヶ戸地区に商業施設を誘致できないかということですが、ただあそこは農地ですから、農地の転用は非常にハードルが高くて、10年ぐらい千葉県と交渉し続けているのですが、やっと少し光が見えてきたかなという状況になっています。また、あそこになったら出てみたいという商業施設もありますので、まだあきらめずに農用地の解除に向けて交渉を続けているところでございます。当然それには地権者も絡むものですから、地権者のご理解を得る必要がありますけれども、これからもしっかりと働く場を確保することも必要です。企業としては、働き手が確保できるかという視点もありますので、その辺もニーズ調査をしていろんな形で生活をしていくために便利になるように、また合わせながら先ほど言ったように足の確保。我々としても駅に行く足の確保というのは阪東バスを中心に、これからもあびバスあるいは路線バスの支援をしながら、継続をしていく必要があるだろうというふうに認識をしています。

市民：今日だと思いますが、中央学院大学の学生による施策提案があると思いますが、私が思うに若い人たちの考え方とか、施策を検討するという事は非常にいいことだと思いますけれども、やはりそういう機会を市とあるいは市民の方と学生とかで、いろんな年代層を通して、プロジェクトみたいな会議を設置するようなことは、これからはある程度必要になってくるのではないのでしょうか。若い人の意見を聞き、駄目なことはたくさんあると思うのですが、今後、そういう機会を増やしていくようお願いしたいのと、湖北の団地があります。URが所管ですけれども、空きの部屋が今30%以上あるようです。そういうのを有効活用するなど何かできないのでしょうか。さびれた

シャッター通りというふうになってはいますが、他業種とそういう我孫子市の施策とマッチングできるようなことがあれば、異業種の方と検討するというのをやはりこれから考えていったらどうかと個人的な考えでございますけども、一つ考えていただきたいと思います。御答弁ありがとうございます。

市長：はい、ありがとうございます。今日、午後から中央学院大学の方でありますので、ぜひよければお越しただければ、我々も何人かは参加をして大学生の提案を聞いてみるつもりです。実際に今、我孫子で若い人たちの子育て関係だとか、若者が定住するための政策展開は約10年前に30歳前後の若手職員の提案を受けて実施をしているものがかなりあります。ここに住もうと思うのだったらどういう政策があれば良いのか、自分なりにあるいは友達にもよく聞きながら提案をするよう指示しました。それに優先順位をつけながら今政策展開をしているのが、今の我孫子市内の若者たちへあるいは子育て世代への施策になっています。ただ10年経ったので、今のニーズが変わっているかもしれないですから、また改めて今の30歳前後の若い職員をあつめて、政策提言をさせたところです。今回は、中央学院大学とそういう協定を結んでいる中で、学生たちにいろんな形で協力をしていただいているところです。政策提言ということで初の試みでありますので、期待半分、どこまで学生が勉強しているかなというところがありますけれど、やっぱり若い職員のときもそうだったのですけれど、例えば最初言ったようにNECの周辺に、そこに商業施設は建てられないかという提案がありました。

その職員は、農用地の解除はどれだけ大変かということをお知らせせずに気持ちよく提案していましたが、それを最初から言ってしまうと発想を全部潰してしまいますので、提案は提案として、ただそれを超えるためのハードルに対し協議を進めていくのは、今いる上の職員がこれから県と交渉するけれど、多分長い交渉になるだろうということをお知らせしながら、10年続けているという状況ですが、若い人たちには若い人なりの良い発想がたくさんあります。また、市では2年に1回子ども議会というのを行っています。小学校5、6年生と中学生です。各校から2人ずつ、本来だどこういう事になってくれればいいねという提案を毎回聞いているのですけれども、子供たちは、その学校周辺のところにしかなかない気づかないのですけれども、全体のことを見ようとすると、ちょっと突拍子もない意見がでてくる場合もありますが、楽しい面白い発想もあります。

ので、私も今日の午後は期待をしているところです。ぜひご参加いただければと思います。団地についてはなかなか難しいですけど、URの方では、特に1階2階は高齢者を優先に入れると言っています。部屋は、全部埋まっていないとは聞いていますが、それであれば、市営住宅として1棟借りをして、古い市営住宅はそこに集約する。というのも一つの案ではないかと思いつつ、URとまた話し合いをさせてもらおうと思っています。ただ団地にも自治会ができていますので、そのエリアの自治会との話し合いが必要になってくると思いますので、そこは丁寧に行ってみたいと思います。

市 民：それとあと一点、いろんな施策を市民対象や学校で行っていますけれど、やっぱり見える化がありませんので、我々市民がどういった施策を市の職員が行っているのか、大学との連携など、やっていることはわかるのですけれど、見える化がないのです。今、広報あびこが新聞に入っておりますけれど、新聞をとっていない家庭も結構あるわけです。そういった意味で見える化というのは、特にお年寄りや市民を巻き込むことが大事ですので、検討していただきたいと思います。

市 民：一つ子供の問題でお聞きしたいのですけれども、本当に不登校の子供がすごく増えていて、私もプラスワンというところのお手伝いを始めたのですけれども、子供たちが学校でつらい思いをしています。まだプラスワンに来られる子供はいいのですけれども、そこにも来られない。そういう子供たちをいろんなところで、対策をとっていると思うのですけれども、かなり増えているので学校自身が本当に息苦しくなっているという現状。これは、我孫子だけの問題ではなくて全国的な問題なので、なかなか難しいと思うのですけれども、でもそういう子供たちがその行けるところということで学校の中に作っても、学校に行きたくないとか怖いという、そういう思いをしている子供にとっては門をくぐることもつらいのです。今は保健室に行ったから、おはようと言ったから出席としているという話も聞いています。それでは本当に困ると思って、これからの将来の子供たち、本当に働くことができない子供たちが大人になったときに日本の国はどうなのだろうと思います。そういうところで、我孫子で学校に行けない子供たちを学校ではなくて、どこか居心地の良い場所作りを、ぜひ考えていただきたいと思うのです。印西の方では皆さんからお金を集めて、子供たちがそういうところで

過ごせるようなところを作っていくという運動もあるそうです。やはり行政としても、その辺に目を向けていただきたいと思います。あと二つ目は、選挙管理委員会の問題です。私は、期日前投票所を増やしてくださいということで、天王台西公園が増えて、本当にありがたいなと思うのですが、もっと期日前投票所も増やして、時間的にも増やしていただきたいなということが一つあるのです。実は、老人施設のところで投票ができる場所と、できないところがあるのです。どういうふうに啓蒙しておられるのか。実は私の知人は目が見えないので投票に行きたいということで、私が同行して期日前投票を利用しました。ところが、その同じ施設では施設内の選挙はできないので、ある年配の方が選挙に行きたいと言ったら、病気がうつるから行かないでくれと言われたそうです。やっぱり、どこの施設でも結構人数がいる施設なのです。それで、そういうところにも市の施設で選挙ができるというふうにしたり、啓蒙したり、大変でしょうけれども立会人を出すというふうにして、ぜひ選挙したい方の意思をきちっと、人権問題だと思うので、行っていただきたいと思います。

企画総務部長：ご意見ありがとうございます。私の方で選挙管理委員会を所管しておりますので、選挙についてお答えをさせていただきます。まず、期日前投票所の増設の件ですけれども、天王台西公園のご評価をいただきましてありがとうございます。一応、西公園は今までは、当日の投票だけ行う投票所だったのですけれども、昨年1月の市長選挙において、結果的には選挙が執行されませんでしたけれども、そこから期日前投票所をまず天王台地区に増やそうということで試みをしました。

昨年11月の市議会議員選挙では、まず期日前投票の期間を金曜日、土曜日とし、日曜日の執行日前2日間、開設をさせていただきました。今回、先日執行した衆議院議員の総選挙につきましても、同様に開設をさせていただいたのですけれども、現在、期日前投票所は、市内に6ヶ所を開設しているのですけれども、その各々の投票状況をもう一度分析して天王台西公園の開設期間を、もうちょっと増やせば投票率が上がるのかどうか、その辺は考えたいと思います。投票所を一つ増やすには、人件費とシステム費用などがかかりますので、その辺も市のバランスを見ながら引き続き検討はしてまいります。まず、直近では天王台西公園の方は期日前投票期間の日数増というのは重要と捉えていて、今後の課題になっておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

それから福祉施設、病院の投票でございますけれども、こちら市内にもかなり福祉施設には登録をいただいております、投票できる施設というものはもちろん市の方でも公表しております。ただ、届け出をいただいて、やはり先ほどお話を触れられておりましたけれども、病院や施設内で立会人を設けていただかなければいけないなど、いろいろと施設にもご負担をいただく条件というのは当然でございます。まだ、行われていない施設には広くお知らせをというお話がありましたので、その辺は施設に向けて、「この施設は投票できる環境にありますよ」というような周知をしてみたいと思います。よろしく願いをいたします。

市長：不登校については、教育委員会の所管になりますけれども、実際には教育委員会が何かを行うにあたっての予算関係は私の方で決定するものであり、教育相談の協議を行いながら、予算措置を行っていますので、少し私の方からお話をさせていただきます。私自身も市長になる前は、学校保健担当理事として学校計画を立てていました。そういう状況の中で不登校の子供たちはその頃から大体小学校で40人前後、中学校が120人前後、これは今もほとんど変わっていません。ただ、コロナの状況になってからは、いちいち病院に行って診断書を出して休むではなくて、体調が悪かったら休んでいいよという状況になってから、非常に不登校の子供が増えてきています。ただその前からは、学校には行きたくないけれどもという形で場所を作っていましたが、今はその場所が、東小学校と我孫子のけやきプラザ11階の2ヶ所、そういう場所を用意しています。そこに来た場合には、在籍の中で当然登校として認めています。ただ、そこに登録はしても、なかなか来ない子供が多いというのが現実です。そうすると職員の方にはその11階の場所が、もしかなり増えて来るようになったら、私の方できちっと広い場所を確保するから、そこについては状況を見ながら、いつでも相談してくるようにと伝えているところです。実際に東小のいわゆる不登校の子供たちが集まる場所が、教室ではなくて、地域の人たちも使うような教室で一緒にやってみたり、少し教室を移動してみたりといろんなことを行っています。ただ、その学校の子ではない子供も来ています。そういう子は、自分の学校には行きづらいようで、学校に行けそうな子は、東小学校の校舎内ですけれども、普通の子供たちが行き来出来ない場所に用意されていて、あともう一つは、けやきプラザ11階に場所を確保しながら行っているという状況です。その他にも先ほど

言ったように保健室だったら入れる子、他の教室で他の子と合わなければ入れる子はいます。私も学校訪問していますが、教室の中に 1 人だけ周りをパーテーションで囲んで勉強している子もいます。保健室で勉強できる子は、まだ良い方で、その中で不登校が多いときには、校内に支援相談センターを用意しております。人を張りつけながら指導する体制をとっています。当然、その必要がない学校では人をつけていませんが、必要な学校には人が確保でき次第、配置をしているという状況です。当然、誰でもいいから入れれば良いというレベルではないものですから、ナイーブな子もおりますので。そこはそれぞれの知識経験のある方が見つかって、そこに配属するという形で、今、配置されています。いろんところで子供たちがどういう場所であれば来やすいか、子供によって全然違うなというのを実感しています。夜間中学だとか子供食堂など、いろんところでいろんな形で協力してくださっている団体があるのは承知していますけれども、学校に来なくてはいけないという考えは、もうやめようという話を教育長としています。学校でなくても勉強できる場はあるという形で、その中のいくつかをいろんな形で子供さんと親御さんがよく検討した中で、学校であれば学校、あるいは学校ではなくてもこういう場所がある。という部分を含め、指導していければと思っていますので、これからもご協力よろしくお願いします。